

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	報告書作成	[Redacted]	事業責任者
内部	アンケート調査の実施		事業担当者

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1. 新規に事業(学びの場)に参加した人数	100 人	2023 年 2 月	21 人：雲南市議会議員 3 人が勉強会に参加し、対象とする子どもたちの状況に関心を持ってもらい、ICT を活用した学びなど最先端の情報をインプットできた。
2. 同じ困り感の人とつながるって楽しいという体験をした後、既存の会に参加した人数	30 人	2023 年 2 月	3 人：ICT 機器を使った学びに慣れてきた子が、初めての子に指導することができた。複数の子どもがボードゲームのイベントに連れ立って参加し楽しく遊んだ。
3. 地域に頼れる人が3人ぐらいいると答える子どもや保護者の数	30 人	2023 年 2 月	12 人

4.㊦子どもや保護者が参加させて貰える地域の理解者の活動がいくつあるか ④地域の理解者の活動に参加した子供の数	㊦ 20箇所 ④ 30人	2023年2月	㊦ 3つ ④ 3人
--	-----------------	---------	--------------



1 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	令和3年度は、拠点の改修及び備品の調達に注力してきた。また、ニーズのある子らの学びの場の運営に多くの時間を投入してきた。その分、対象者につながるための情報発信や地域住民との関わりづくりに労力を割くことが十分にできなかった。 しかし、令和4年度の開始に当たり、かなり実行計画が具体化できている。とくに著名な当事者を招いたイベントの開催など、アウトプットの3に関するものについて確実に遂行できる見込みである。また、当団体の活動の周知を応援してくれる市内の団体との連携の見通しが立っている。

B) 事業の改善状況の評価

1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動は、潜在的な支援対象者に届いているか	これまでの方法（口コミ）では十分に届かないことが判った。	<p><調査結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を通じた情報周知の可能性について教育委員会や他の市民団体からヒアリングをしてきたが、教員の働き方改革の一環で、民間のチラシを学校が配布できなくなったことが判明した。 ・LD の子を持つ保護者へのヒアリングから、「あの子ども LD で苦労しているかも」と思っても話題にしづらい状況にあることが判った。理解のない言葉をかけられた経験から「どうせ相談しても分かってもらえない」という感覚があり、声をかけた相手も放っておいてほしいだろうと気を遣うため、口コミをしづらい状況があるということである。 ・令和 4 年 4 月 26 日に地域おせっかい会議参加者へのヒアリングをしたところ、関心層からも「みかた麴杜舎のウェブサイトがないため、活動がわからない」「Facebook グループを作って発信してみてもは」という声が出た。 <p><考察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前教員で相談員という立場に立っていたときは、当事者からアクセスしてきてくれていたが、いまの民間の立場ではそのような情報の集まり方は期待できない。 ・学校を通じたチラシ配布と口コミという、想定していた 2 つの方法が有効でないことが判明したため、インターネットでの情報発信等別の方法を強化していかなければならない。
実施状況の適切性	実施体制は適切か	とくに情報発信にかかわる体制が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・前項のとおり、インターネットでの情報発信等を強化していく必要があったものの、助成金の管理等で労力を取られてしまい、情報発信に十分に時間を割けなかった。

			<ul style="list-style-type: none"> ・助成金の管理をするスタッフ以外に、渉外や情報発信に時間を割けるスタッフが必要（計3人体制）。とはいえ、人件費に割く予算がないため、学生や社会人のボランティアを活用していく必要がある。
実施状況の 適切性	今後事業を実施するうえで支障となりそうな要因が見えているか	身近に当事者がいない住民（無関心層）の関心を高めたり関わってもらうことが難しいため、「社会的孤立」に関心のある層との関わりづくりにより注力すべきである。	<p><調査結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の地域自主組織から学びの場づくりでの連携可能性をヒアリングをしたところ、「これ以上仕事を増やしたくない」「発達障害という言葉だと地域の方が関心をもってくれない」という回答だった。 ・農業従事者との連携を相談しようとしたが、「農業関係者は忙しくて時間が作れない」と断られた。 <p><考察></p> <p>「対象者が地域で過ごしやすくなること」を目指していたが、身近に当事者がいない一般の方（無関心層）にとっては他人事にすぎず、協力者を探す難しさをあらためて認識した。期待していたほど「過ごしやすい」範囲が広がらなさそうである。</p> <p>他方、本休眠預金事業の他の採択者や、地域おせっかい会議への参加者など、地域の孤立者のために活動している住民はLD当事者に思いを寄せてくれる可能性が高く、関与の可能性も高そうである。こうした住民との協働関係を作っていくことが重要と考える。</p>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	アウトプット発生に影響を与えた阻害要因	潜在的な受益者と繋がる方法が、思った以上に限られており、有効と思われる他団体との連携に注力する体制づくりが課題である。	<p>上記3項目に挙げた事実も総合すると、民間の立場で潜在的な当事者に繋がる方法は、当事者や保護者につながる可能性のある市民団体等と連携して、その団体の開く集まりで当団体の活動をPRするのが数少ない有効な方法であると言えそうである。</p> <p>しかし、上記の体制面での課題から、他の団体との連携を図るための渉外に動ける人員が限られており、現時点では十分な動きができていない。</p>

組織基盤強化・ 環境整備	組織の持続可能性（財務的に）の見込みが改善に向かっているか	改善に向かっている	令和4年度中に放課後等デイサービスを立ち上げる準備を進めており、所轄庁と話して必要な要件を満たしていることを確認した。またそのスタッフとなる人材確保や、必要な補助金獲得の準備を進めつつある。
組織基盤強化・ 環境整備	地域内で新たに構築された人や団体との協力、連携関係はあるか	想定以上に進んでいる	雲南市の既存の市民団体との関係が築けている。たとえば、以下のようにつながりが生まれている。 ・情報発信のサポートをボランティアでしてくれる方が見つかった ・地域交流センターや市民団体が会場提供をしてくれる ・地域内の専門家とつながった 今後、地元メディアとの連携ができることを期待する。

2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

○中学2年生の学習障害がある男子生徒の事例（アウトカム2に貢献）

数年間、デイジー教科書を使っており本人は、使い方をマスターしている。今回、初めて、まだデイジー教科書について知らない子供や保護者にデイジー教科書の機能を説明する場「パソコン活用勉強法講座」を開催した際、僕がやるんですかともじもじしながらも、丁寧にデモンストレーションしてくれた。その子の母親も一緒に講座に参加していたが、うちの子にもこんな一面があったのだと、喜んでおられた。

その後、デイジーの使い方を教えた他校の同学年の同じ読みの苦手さがある男子生徒と仲良くなって、ボードゲーム大会に参加している。10月には、柳家花緑師匠を地元にお招きするために、ビデオレターを作製したが、その際にも、呼びかける一役を担ってくれた。

○保護者対象の視覚認知勉強会の事例（アウトカム2）

対象児童の視覚認知の特性の検査をする専門家（認定眼鏡士）を招いての勉強会を開催した際に、対象者だけでなく支援側や保護者側にも視覚認知特性があることが判明した。保護者が、子どもの学びづらい原因を納得し、少しでも楽になるならばと早速眼鏡づくりに向かっている。

○広域通信制高校のサポート校に在籍している生徒の事例（アウトカム4）

人との関わりが苦手な特性がある生徒たちなので、意識的に地域の人と関わる場を作ろうとしている。令和3年度は、地元のペタンク同好会の方とペタンクを行う場を作った。お年寄りが温かく生徒を受け入れてくださり、生徒もナイスショットをするとガッツポーズを思わずするなど楽しんで行うことができた。

3 事前評価時には想定していなかった成果

○事業所へのヒアリング時に当団体の活動を知ってもらったところ、従業員の特性について相談を受けるということがあった。



4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</p>	<p>① 事業全体の中で、情報発信が最重要な課題（解決すればそれ以降のアウトプットの改善が見込める）となっていることが明確に認識できている。</p> <p>② 情報発信を効果的に行うための体制づくりとして、ボランティアの関与や専門家の助言を取り入れるなど、改善の取り組みを始めている。</p> <p>③ 現状の実施体制を踏まえ、事業期間終了時まで達成すべきことを絞るという共通認識が組織内でできている。</p>

添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画（必須）
- 2.中間評価実施後の事業計画
- 3.活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



パソコン活用学習法講座



ZOOM 研修会



視覚認知についての研修会



自治会の同好会の方たちとのペタンク